

帆船日本丸国指定重要文化財記念式典について

本式典は、3月20日の重文答申を受けて4月16日に開催された。この日は総帆展帆の日だったが、良く晴れた日で、帆を広げた日本丸の前での開催は本式典にふさわしいセットアップだった。



帆船日本丸記念財団佐野修一総務部長の開会に続いて、主催者として平原敏英副市長が挨拶した。海上の帆船では国内初であること、日本丸が繋留されている1号ドック(石造)も重要文化財になっていること等が紹介された。来賓祝辞は4名、横浜市議会梶村充議長、文化庁山崎秀保文化財部長、国交省羽尾一郎海事局長、海技教育機構野崎哲一理事長の面々から、それぞれの立場での祝辞をいただいた。

来賓は他にも大勢いて、県議、市議等々20名ほどが紹介された。祝電は4通来たそうで、うち菅義偉官房長官、小此木八郎衆議院議員からの祝辞が読み上げられた。合唱団からも出しておけばよかったかな、と思った。

日本丸飯田敏夫船長からは、重文指定の理由として、教育に果たした役割、リベット構造の船体、航海の記録が全て残っていること、教育資源として使われていることが説明された。つづいて、財団金近忠彦会長より総帆展帆協力者に感謝状と記念品が、飯田船長より甲板清掃協力者に感謝状が、それぞれ贈呈された。また友の会ははじめ3団体にも飯田船長から感謝状が渡された。さらに名誉船長1団体および1個人が紹介された。最後に金近会長から、重文指定には、国の支援、市民の支援あつてのものであり、国際観光都市ヨコハマのシンボルとして、みなさんの協力を得て維持してゆきたいとの挨拶で、式典は終了した。

記念式典なので、それなりの方々が来るとは思っていたが、これほど大がかりなものとは思ってなかった。びっくりポン。

本式典への招待状は、合唱団に1名分だけだったので、私は所定の席に座ったが、良く晴れすぎた暑い日で、ネクタイを締めていたこともありなかなかの難行だった。壇上のお偉方みなさんはもっと苦しかったに違いない。



合唱団からは、小永井さん、鶴野さん、堀さんも来てくれた。前に座らなくてよいので、後ろの日陰にいらしたのだと思う。

本式典はあくまで内定を祝うものであり、11月の本指定のあとも、きっともう一つの式典が行われるに違いない。その日は、是非とも、日本丸合唱団のオープニングで開会し、「日本丸讃歌」など何曲か歌わせていただければ、と夢想している。

もう一つの夢は、宝くじで100万円(以上)をゲットすることである。もし当たれば、財団に寄付をして、合唱団という団体に「名誉船長」の称号をいただくのだ。(2017/5/9、山路永司。)

2017年合宿開催

今年も5月27日(土)28日(日)の2日間、合宿を開催しました。

団員のべ37名、大森キャプテン、大久保先生のご参加も頂き、葉山は湘南国際村センター



に参集。13:30の集合時間には既に会場の椅子も並べ追え、すぐに発声練習開始。途中休憩を取りながらもあつという間に夕食時間となりました。

夕食後はお楽しみの懇親会の時間ですが、今回幹事のB2の皆さんは、サプライズイベントを用意していました。題して『魔のアンケート調査』。内容については既にお知らせの通りですが、定演に向けてのラストスパートの良い材料となりました。懇親会では大森キャプテンのカホンが大活躍。ミニカホンでしたが、本番ではフルサイズが登場することです。



懇親会後何か所かでの分科会があ

ったようですが、翌朝は皆さん爽やかな顔で集合。新鮮な地元野菜などの朝食後、午前中もたっぷり練習に励みました。

大変充実した成果の大きい合宿だったと思います。

(鶴野記、写真提供岩尾さん)